

JIS

界面活性剤用語

JIS K 3211 -1990

(1997 確認)

(2002 確認)

(2007 確認)

平成 2 年 3 月 1 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：昭和 39.2.1 改正：平成 2.3.1 確認：平成 9.2.20

官 報 公 示：平成 9.2.20

原案作成協力者：日本界面活性剤工業会

審 議 部 会：日本工業標準調査会 化学製品部会（部会長 中島 利誠）

この規格についての意見又は質問は、経済産業省 産業技術環境局標準課 環境生活標準化推進室（☎100-8901 東京都千代田区霞が関1丁目3-1）にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

界面活性剤用語

K 3211-1990

(1997 確認)

Technical terms for surface active agents

1. 適用範囲 この規格は、界面活性剤工業において用いられる主な用語及びその定義について規定する。

2. 用語の分類 用語の分類は、次の2分類とする。

(1) 一般基本用語 (用語番号：1001～1170)

(2) 応用製品用語 (用語番号：2001～2151)

3. 用語、定義、参考 用語及び定義は、次のとおりとする。

なお、参考のために対応英語を示す。

備考 対応英語の中で太字で示したものは、ISO 862-1984 (Surface active agents-Vocabulary) 規定の用語を示す。

(1) 一般基本用語

番号	用語	定義	対応英語 (参考)
1001	アニオン界面活性剤	水中でイオン化し、界面活性を示す部分が陰イオンである界面活性剤。	anionic surface active agent
1002	アルキルフェノール	ベンゼン核の水素原子の1個を水酸基、残りの水素原子の1個以上をアルキル基で置換した化合物。主として炭素数8又は9のアルキル基1個で置換したものはノニオン界面活性剤の原料として用いられる。	alkylphenol
1003	アルキルベンゼン	ベンゼン核の水素原子の1個以上をアルキル基で置換した炭化水素類の総称。主として炭素数12のアルキル基1個で置換したものはアニオン界面活性剤の原料として用いられる。	alkylbenzene, alkylbenzen
1004	アルファオレフィン	末端の炭素-炭素結合が二重結合である炭化水素。炭素数が10～20の混合物はスルホン化、中和してアニオン界面活性剤として用いられる。	α -olefin
1005	泡	気泡と泡まつの両方の意味に使われる総称。	foam , froth, bubble
1006	泡立ち	泡ができること、また、それが持続する状態。	foaming
1007	泡立ち試験	起泡力試験と同じ。	foaming test
1008	陰イオン界面活性剤	アニオン界面活性剤と同じ。	anionic surface active agent
1009	エアロゾル	気体中に、液体又は固体の微粒子が分散、浮遊した系。エアロゾルともいう。	aerosol
1010	液晶	流動性はあるが、光学的等方性がなく、複屈折を示し、結晶のような性質をもつ状態又はそのような状態を示す物質。	liquid crystal

対応国際規格：ISO 862 Surface active agents-Vocabulary